

アモス書

第一章

テコアの牧者の中なるアモスの言是はユダの王ウジヤの世イスラエルの王ヨアシの子ヤラベアムの世地震の二年前に彼が見されたる者にてイスラエルの事を論るなり其言に云く

二 エホバ、シオンより呼號りエルサレムより聲を出したまふ牧者の牧場は哀きカルメルの巔は枯る

三 エホバかく言たまふダマスコは三の罪あり四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ即ち彼らは鐵の

打禾車をもてギレアデを打ち 我ハザエルの家に火を遣りベネハダデの宮殿を焚ん 我ダマスコの關を碎き

アベンの谷の中よりその居民を絶のぞきベテエデンの中より王の杖を執る者を絶のぞかんスリアの民は擄へられ

てキルにゆかんエホバこれを言ふ

六 エホバかく言たまふガザは三の罪あり四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ即ち彼らは俘囚をことごと

とく曳ゆきてこれをエドムに付せり 我ガザの石垣の内に火を遣り一切の殿を焚ん 我アシドドの中よりそ

の居民を絶のぞきアシケロンの中より王の杖を執る者を絶除かん我また手を反してエクロンを撃んベリシテ人の

遺れる者亡ぶべし主エホバこれを言ふ

九 エホバかく言たまふツロは三の罪あり四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ即ち彼らは俘囚をことごと

とくエドムに付しました兄弟の契約を忘れたり 我ツロの石垣の内に火を遣り一切の殿を焚ん

イ母後一四・二 代下 へ耶二五・三〇 耳三

二〇・二〇 口歴七・一四

八何一・一 二歴七・一〇

水歴一四・五 ト母前二五・二 賽

三三・九 又耶一七・二七、四九

ヲ王下一六・九

ワ歴九・七 一〇、一一、二二、

カ代下二八・一八 祭

タ歴一・九 一四・二九 耶四七

レ耶四七・一 一五 番二・四 亞九・五、

六 六 一七 耳三・六 一七 耳三・六 一七 耳三・六

ナ祭二三・一 耶四七 五・一、九・二一 一四 結二六・一、

二七、二八、 耳 一四、七 三・四、五 三・四、五

ラ歴一・六 ム母後五・一一 王上

七 金をために賣り 貧者を鞋一足のために賣る 彼らは弱き者の頭に地の塵のあらんことを喘ぎて求め柔かき

八 者の道を曲げ又父子ともに一人の女子に行て我聖名を汚す 彼らは質に取れる衣服を一切の壇の傍に敷きて

九 その上に偃し罰金をもて得たる酒をその神の家に飲む

一〇 嚮に我はアモリ人を彼らの前に絶たりアモリ人はその高きこと香柏のごとくその強きこと橡の樹のごとく

一 なりしが我その上の果と下の根とをほろぼしたり 我は汝らをエジプトの地より携へるのほり四十年のあひだ

二 荒野において汝らを導き終にアモリ人の地を汝らに獲させたり 我は汝らの子等の中より預言者を興し汝らの

三 少者の中よりナザレ人を興したりイスラエルの子孫よ然るにあらずやエホバこれを言ふ 然るに汝らはナザレ

人に酒を飲ませ預言者に命じて預言するなかれと言ひ

四 視よ我麥束を積滿せる車の物を壓するがごとく汝らを壓せん その時は疾走者も逃るに暇あらず強き者

五 もその力を施すを得ず勇士も己の生命を救ふこと能はず 弓を執る者も立ことを得ず足駛の者も自ら救ふあ

六 たはず馬に騎れる者も己の生命を救ふこと能はず 勇士の中の心剛き者もその日には裸にて逃んエホバこれ

を言ふ

第三章

一 イスラエルの子孫よエホバが汝らにむかひて言ところ我がエジプトの地より導き上りし全家にむ

かひて言ところの此言を聴け 地の諸の族の中にて我たゞ汝ら而已を知れりこの故に我なんぢら

の諸の罪のために汝らを罰せん 二人もし相會せずば争で共に歩かんや 獅子もし獲物あらずば豈林の中

イ 賽一〇・二 摩五・二出二二・二六 二民一三・二八、三一、又申二・七、八・二 詩一四七・一九、一七

ロ 結二二・二一 八・二〇、一〇・二二 申二 出二二・五 米六 一三・二二 耶 三三・一七 太一一

ハ 利二〇・三 結三六 へ民二二・二四 申二 出二二・五 米六 一三・二二 耶 三三・一七 太一一

ニ 二〇 羅二・二四 三二 書二四・八 四 一三・二二 米二・六 申七・六、一〇・一五 羅二・九 彼前四

ト 民一三・二八、三一、又申二・七、八・二 詩一四七・一九、一七

ル 民六・二 士一三・五 力 摩九・一 耶九・二三 二〇

ヲ 賽三〇・一〇 耶 三三・一七 太一一

ソ 但九・二二 太一一

ツ 四四・七 約一五・一五 二〇・二九 哥前九 ウ王下一七・三六、ノ士三三・二〇 三九・一八
ネ創六・二三、一八・ナ磨一・二二 一八・九、一〇、一一 オ王上三三・三九 十詩八九・三五 一五
一七 詩二五・一四、ラ徒四・二〇、五、ム耶四・三二 中耶三六・二二 結 瑪耶一六・一六 哈一 一五
ケ結二二・五、二二

五 五 に吼んや猛獅子もし物を攫まずば豈その穴より聲を出さんや 五 もし絹の設なくば鳥あに地に張れる網にかゝら

六 六 んや網もし何の得るところも無くば豈地よりあがらんや 六 邑にて喇叭を吹かば民おどろかざらんや邑に災禍の

七 七 おこるはエホバのこれを降し給ふならずや 七 夫主エホバはその隠れたる事をその僕なる預言者に傳へずしては

八 八 何事をも爲たまはざるなり 八 獅子吼ゆ誰か懼れざらんや主エホバ言語たまふ誰か預言せざらんや

九 九 アシドドの一切の殿に傳へエジプトの地の一切の殿に宣て言へ汝等サマリヤの山々に集りその中にある大

一〇 一〇 なる紛亂を觀その中間におこなはるゝ虐待を觀よ 一〇 エホバいひたまふ彼らは正義をおこなふことを知す虐げ

二 二 取し物と奪ひたる物とをその宮殿に積蓄ふ 二 是故に主エホバかく言たまふ敵ありて此國を攻かこみ汝の權力を

三 三 汝より取下さん汝の一切の殿は掠めらるべし 三 エホバかく言たまふ牧羊者は獅子の口より羊の兩足あるひは

片耳を取かへし得るのみサマリヤに於て床の隅またはダマスコ錦の榻に坐するイスラエルの子孫もその救はるゝ

こと是のごとくならん

一三 一三 萬軍の神主エホバかく言たまふ汝ら聽てヤコブの家に證せよ 一四 我イスラエルの諸の罪を罰する日には

一五 一五 ペテルの壇を罰せん其壇の角は折て地に落べし 一五 我また冬の家および夏の家をうたん象牙の家ほるび大きな

家失んエホバこれを言ふ

第四章

一 一 バシヤンの牝牛等よ汝ら此言を聽け汝らはサマリヤの山に居り弱者を虐げ 貧者を壓し又その主

二 二 にむかひて此に持きたりて我らに飲せよと言ふ 二 主エホバ己の聖を指し誓ひて云ふ視よ日汝らの

三 三 上に臨むその日には人汝らを鈎にかけ汝等の遺餘者を鈎魚鈎にかけて曳いださん 三 汝らは各々その前なる石垣

ラ 賽四七・四 耶一〇 ウ代下一五・二 耶 夕何四・一五、一〇・八 コ伯三八・三四 摩九 サ中二八・三〇、三八、
 二六 摩五・八、 二九・二三 摩五・六 十摩五・四 六 三九米六・一五番 メ摩六・一〇
 九・六 半摩五五・三 マ摩六・一二 一・二三 基一・六 ミ米三・一一
 ム耶七・二九 結一九 ノ摩四・四 ケ伯九・九、三八・三一 テ賽二九・二一 キ摩二・六
 ・二、二七・二 才摩八・二四 フ詩一〇四・二〇 ア王上二二・八 エ賽二九・二一 摩二

踏む者なりその名を萬軍の神エホバといふ

第五章

イスラエルの家よ我が汝らに對ひて宣る此言を聽け是は哀歎の歌なり 處女イスラエルは仆れ
 て復起あがらず彼は己の地に扑倒さる之を扶け起す者なし 主エホバかく言たまふイスラエルの
 家においては前に千人出たる邑は只百人のみのこり前に百人出たる邑は只十人のみのこらん

エホバかくイスラエルの家に言たまふ汝ら我を求めよさらば生べし ベテルを求むるなかれギルガルに

往なかれベエルシバに赴くなかれギルガルは必ず擄へられゆきベテルは無に歸せん 汝らエホバを求めよ然ば

生べし恐くはエホバ火のごとくにヨセフの家に落くだりたまひてその火これを焼んベテルのためにこれを熄す者

一人もあらじ 汝ら公道を茵蔕に變じ正義を地に擲つる者よ 昂宿および參宿を造り死の蔭を變じて朝とな

し晝を暗くして夜となし海の水を呼て地の面に溢れさする者を求めよその名はエホバといふ 彼は滅亡を忽然

強者に臨ましむ滅亡つひに城に臨む 汝らは門にありて勸戒る者を惡み正直を言ふ者を忌嫌ふ 汝らは貧き者を踐つけ麥の贖物を之より取る

この故に汝らは鑿石の家を建しと雖どもその中に住ことあらじ美しき葡萄園を作りしと雖どもその酒を飲こと

あらじ 我知る汝らの愆は多く汝らの罪は大なり汝らは義き者を虐げ賄賂を取り門において貧き者を推枉ぐ

是故に今の時は賢き者黙す是惡き時なればなり

汝ら善を求めよ惡を求めざれば汝ら生べしまた汝らが言ごとく萬軍の神エホバ汝らと偕に在さん

一五 汝ら悪を惡み善を愛し門にて公義を立よ萬軍の神エホバあるひはヨセフの遺れる者を憐れみたまはん

一六 是故に主たる萬軍の神エホバかく言たまふ諸の街衢にて啼ことあらん諸の大路にて人哀哉哀哉と呼ん

一七 又農夫を呼きたりて哀哭しめ啼女を招きて啼しめん また諸の葡萄園にも啼こと有べし其は我汝らの中を通る

一八 べければなりエホバこれを言たまふ

一九 エホバの日を望む者は禍なるかな汝ら何とてエホバの日を望むや是は昏くして光なし 人獅子の前を

二〇 逃れて熊に遇ひ又家にいりてその手を壁に附て蛇に咬るゝに宛も似たり エホバの日は昏くして光なく暗にし

二一 輝なきに非ずや

二二 我は汝らの節筵を惡みかつ藐視むまた汝らの集會を悦ばじ 汝ら我に燔祭または素祭を獻ぐるとも我こ

二三 れを受納れじ汝らの肥たる犢の感謝祭は我これを顧みじ 汝らの歌の聲を我前に絶て汝らの琴の音は我これを

二四 聴じ 公道を水のごとくに正義をつきざる河のごとくに流れしめよ

二五 イスラエルの家よ汝らは四十年荒野に居し間犠牲と供物を我に獻げたりしや かへつて汝らは汝らの王

二六 シクテを負ひ汝らの偶像キウンを負へり是即ち汝らの神とする星にして汝らの自ら作り設けし者なり 然ば我

二七 汝らをダマスコの外に移さん萬軍の神となふるエホバこれを言たまふ

第六章

一 身を安くしてシオンに居る者思ひわづらはずしてサマリヤの山に居る者諸の國にて勝れたる國の中なる聞え高くしてイスラエルの家に就きしたがはるゝ者は禍なるかな カルネに涉りゆき

イ詩三四・一四、九七 二出二二・二二 番一 へ耶三〇・七 耳二・二 二二〇 何八・一三 ヲ申三三・一七 番 王上二一・三三 一〇 羅一二・九 番一・二五 番一・二五 二四・一四 結二〇 力王下一七・六 ツ耶二・一〇 口出三三・三〇 王下 水祭五・一九 耶一七・ト耶四八・四四 又祭六六・三 米六・八、一六、二四 徒 ヨ路四・二三 一九・四 耳二・一四 一五 結二二・二二、 七・四二、四三 祭 夕路六・二四 八耶九・一七 二七 彼後三・四 二二一 一六 耶六 ル何六・六 米六・八 四三・二三 出一九・五

ネ王下一八・三四
ム歴五・一八、九・一〇
ノ歴五・二二、六・二二
十創三七・二五
マ耶五・一、二、四
來六
ケ詩四七・四
結二四
コ歴八・三
エ歴五・一、一
テ歴三・一、五
ア何一〇・四
歴五・七
サ耶五・一、五
キ民三四・八
王上八
六五

彼處より大ハマテに至りまたペリシテ人のガテに下りて視よ其等は此二國に愈るや彼らの土地は汝らの土地より

も大なるや 汝等は災禍の日をもて尙遠しと爲し強暴の座を近づけ 自ら象牙の牀に臥し寢臺の上に身を伸

し群の中より羔羊を取り圈の中より犢牛を取て食ひ 琴の音にあはせて唱ひ噪ぎダビデのごとくに樂器を製り

出し 大罽をもて酒を飲み最も貴とき膏を身に抹りヨセフの艱難を憂へざるなり

是故に今彼等は擄はれて俘囚人の眞先に立て往んかの身を伸したる者等の嘈の聲止べし 萬軍の神エホ

バ言たまふ主エホバ已を指て誓へり我ヤコブが誇る所の物を忌嫌ひその宮殿を惡む我この邑とその中に充る者と

を付すべし 一の家に十人遺りをるとも皆死ん 而してその親戚すなはち之を焚く者その死骸を家より運び

いださんとて之を取あげまたその家の奥に潜み居る者に向ひて他になほ汝とともに居る者あるやと言ふとき對へ

て一人も無しと言ん此時かの人また言べし黙せよエホバの名を口に擧ること有べからずと 視よエホバ命を下

し大なる家を撃て墟址とならしめ小き家を撃て微塵とならしめたまふ

馬あに能く岩の上を走らんや人あに牛をもて岩を耕へすことを得んや然るに汝らは公道を毒に變じ正義の

果を茵蔯に變じたり 汝らは無物を喜び我儕は自分の力をもて角を得しにあらずやと言ふ 是をもて萬軍の

神エホバ言たまふイスラエルの家よ我一の國を起して汝らに敵せしめん是はハマテの入口よりアラバの川までも

汝らをなやまさん

主エホバの我に示したまへるところ是のごとし即ち草の再び生ずる時にあたりて彼蝗を造りたま

ふその草は王の刈たる後に生じたるものなり 其の蝗地の青物を食盡し、後われ言り主エホバよ

第七章

三 願くは赦したまへヤコブは小し争でか立ことを得んと
 三 エホバその行へる事につきて悔をなし我これを爲じと
 言たまふ

四 主エホバの我に示したまへる所是のごとし即ち主エホバ火をもて罰せんとて火を呼たまひければ火大淵を
 五 焚きまた産業の地を焚かんとす
 五 時に我言り主エホバよ願くは止みたまへヤコブは小し争でか立ことを得んと

六 エホバその行へる事につきて悔をなし我これをなさじと主エホバ言たまふ
 七 また我に示したまへるところ是のごとし即ち準繩をもて築ける石垣の上にエホバ立ちその手に準繩を執た

八 まふ 而してエホバ我にむかひアモス汝何を見るやと言たまひければ準繩を見ると我答へしに主また言たまは
 九 く我準繩を我民イスラエルの中に設く我再び彼らを見過しにせじ
 九 イサクの崇邱は荒されイスラエルの聖所
 は毀たれん我剣をもちてヤラベアムの家に起むかはん

一〇 時にベテルの祭司アマジヤ、イスラエルの王ヤラベアムに言遣しけるはイスラエルの家の真中にてアモス
 二 汝に叛けり彼の諸の言には此地も堪るあたはざるなり
 二 即ちアモスかく言りヤラベアムは劍によりて死ん

三 イスラエルは必ず擄へられてゆきてその國を離れんと
 三 而してアマジヤ、アモスに言けるは先見者よ汝往て
 三 ユダの地に逃れ彼處にて預言して汝の食物を得よ
 三 然どベテルにては重ねて預言すべからず是は王の聖所王の
 宮なればなり

一四 アモス對へてアマジヤに言けるは我は預言者にあらずまた預言者の子にも非ず我は牧者なり桑の樹を作る
 一五 然るにエホバ羊に従ふ所より我を取り往て我民イスラエルに預言せよとエホバわれに宣へり
 一六 今

イ賽五一・一九 歴七
 一〇 雅五・一六
 二八・一七、三四
 へ創二六・二三、四六
 ト王下一五・一〇
 ヌ歴二・二二
 ヲ王上一二・三三、
 下二・五、四・三八、
 六・一
 口申三三・三六 拿三
 二王下二一・一三 賽
 ホ歴八・二米七・一八
 一四
 リ王下一四・二三
 一三・一

方結二一・二米二・六 一〇一 何四・一三 米六・九、一〇 何一・二・七
 耶二八・二二、二九 耶一四・二 詩一四・四 箴三〇 申二・二六 申九・五
 二二、二五、三一、 結七・二 二四 申六・八 一〇、五九・九、 四八・三七 結七・
 三二 申七・八 申六・八 一〇、一五・九、 一八、二七・三二
 夕祭一三・一六 哀五 申五・二三 米六・一〇、一一 何四・三 申六・二六 耶一五・二、三 耶
 一〇、耶一五・九米 申六・二六 耶一五・二、三 耶

一七 エホバの言を聽け汝は言ふイスラエルにむかひて預言する勿れイサクの家にもかひて言を出すなかれと 是故
 にエホバかく言たまふ汝の妻は邑の中にて妓婦となり汝の男子女子は劍に斃れ汝の地は繩をもて分たれん而して
 汝は穢れたる地に死にイスラエルは擄られゆきてその國を離れん

第八章

一 主エホバの我に示したまへるところ是のごとし即ち熟したる果物一筐あり エホバわれにもか
 ひてアモス汝何を見るやと言たまひければ熟したる果物一筐を見るとこたへしにエホバ我に言たま

三 はく我民イスラエルの終いたれり我ふたゞ彼らを見過しにせじ 主エホバ言たまふ其日には宮殿の歌は哀哭
 に變らん死屍おびたゞしくあり人これを遍き處に投棄ん默せよ

四 汝ら喘ぎて貧き者に迫り且地の困難者を滅す者よ之を聽け 汝らは言ふ月朔は何時過去んか我儕穀物を

五 賣んとす安息日は何時過去んか我ら麥倉を開かんとす我らエバを小くしシケルを大くし偽の權衡をもて欺く事を

六 なし 銀をもて賤しき者を買ひ鞋一足をもて貧き者を買ひかつ屑麥を賣いださんと エホバ、ヤコブの榮光

七 指て誓ひて言たまふ我かならず彼等の一切の行爲を何時までも忘れじ 之がために地震はざらんや地に住る

八 者みな哭かざらんや地みな河のごとく噴あがらんエジプトの河のごとく湧あがり又沈まん 主エホバ言たまふ

九 其日には我日をして眞晝に沒せしめ地をして白晝に暗くならしめ 汝らの節筵を悲傷に變らせ汝らの歌を盡

一〇 哀哭に變らせ一切の人に麻布を腰に纏はしめ一切の人に頂を剃しめ其日をして獨子を喪へる哀傷のごとくなら

しめ其終をして苦き日のごとくならしめん

主エホバ言たまふ視よ日至らんとすその時我饑饉を此國におくらん是はパンに乏しきに非ず水に渴くに非

ずエホバの言を聽ことこの饑饉なり 彼らは海より海とさまよひ歩き北より東と奔まはりてエホバの言を求めん

然ど之を得ざるべし その日には美しき處女も少き男もともに渴のため絶いらん かのサマリヤの罪を指

て誓ひダンよ汝の神は活くと言ひまたベエルシバの路は活くと語る者等は必ず仆れん復興ることあらし

我觀るに主壇の上に立て言たまはく柱の頭を撃て闕を震はせ之を打碎きて一切の人の首に落か

第九章

らしめよ其遺れる者をば我劍をもて殺さん彼らの逃る者も逃おほすことを得ず彼らの遁る者も

たすからじ 假令かれら陰府に掘くだるとも我手をもて之を其處より曳いださん假令かれら天に攀のぼるとも

我これを其處より曳おろさん 假令かれらカルメルの巔に匿るるとも我これを搜して其處より曳いださん假令

かれら海の底に匿れて我目を逃るるとも我蛇に命じて其處にて之を咬しめん 假令かれらその敵に擄はれゆく

とも我劍に命じて其處にて之を殺さしめん我かれらの上に我目を注ぎて災禍を降さん福祉を降さじ

主たる萬軍のエホバ地に捫れば地鏝けその中に住む者みな哀む即ち全地は河のごとくに噴あがりエジプト

の河のごとくにまた沈むなり 彼は樓閣を天に作り穹蒼の基を地の上に置るまた海の水を呼て地の面にこれを

斟ぐなり其名をエホバといふ エホバ言たまふイスラエルの子孫よ我は汝らを視ことエテオピア人を視がごとくするにあらずや我はイス

ラエルをエジプトの國よりペリシテ人をカフトルよりスリア人をキルより導き來りしにあらずや 視よ我主

イ母前三・一詩七四 水徒九・二、一八・二二 二八・六五 結五・

九 結七・二六 五、一九九、二二三、 詩一三九・八 一、二 一、二 一、二 一、二 一、二

口 中九・二一 二四・一四 詩二〇・六 耶五一 一、二 一、二 一、二 一、二 一、二

ハ何四・一五 八詩六八・二一 哈三 五、三三 阿四 四四・一一 夕歴四・一三

二歴五・五 一、二三 又利二六・三三 申 一、四 一、四 一、四 一、四 一、四

